

令和2年度シラバス (国語)

学番中等3 新潟県立燕中等教育学校

教科(科目)	国語(現代文B)	単位数	2単位	学年(コース)	5学年
使用教科書	東京書籍『精選現代文B』				
副教材等	東京書籍『精選現代文B 学習課題ノート』尚文出版『新成現代文』、『大学入試に出た核心漢字2500+語彙1000』				

1 学習目標

近代以降の様々な文章を的確に理解し、適切に表現する能力を高めるとともに、ものの見方、感じ方、考え方を深め、進んで読書することによって、国語の向上を図り人生を豊かにする態度を育てる。

2 指導の重点

- ① 論理的な文章について、論理の展開や要旨を的確にとらえることができる。
- ② 文学的な文章について、人物、情景、心情等を的確にとらえ、表現を味わうことができる。
- ③ 語句の意味、用法を的確に理解し、語彙を豊かにするとともに、文体や修辞等の表現上の特色をとらえることができる。

3 学習計画

月	単元名	教材	学習活動(指導内容)	時間	評価方法
4	評論1	小林康夫 『世界をつくり替えるために』	私たちの言語状況の問題点を考察する。	3	授業観察 発問評価 課題点検 定期考査
			評論を読み、要旨を的確に捉える。		
5	小説1	中島敦 『山月記』	語句の意味を的確に理解し、語彙を豊かにする。	8	授業観察 発問評価 課題点検 定期考査
			短編小説の持つ緊密な構成を理解し、鑑賞の仕方を学ぶ。		
			小説の虚構をとおして、人間に対する深い洞察力、感受性を養う姿勢を身に付ける。		
6	評論1	清岡卓行 『ミロのヴィーナス』	筆者の着眼点に沿って本文を理解する。	5	授業観察 発問評価 課題点検 定期考査
			筆者の論の流れを把握し、主張を読み取る。 芸術の見方について考えを持つ。		
	評論2	鈴木孝夫 『相手依存の自己規定』	評論を読み、書き手の意図を的確に捉える。	4	定期考査
			日本と西欧の「自我」のとらえ方の違いについて考察を深める。 筆者の論の流れを把握し、主張を読み取る。		
7	詩歌	詩歌	詩や歌の持つリズムを味わいながら、情景を思い浮かべ鑑賞する。	3	授業観察 発問評価 課題点検 定期考査
8	言語活動	読書プレゼンテーション	新書を読み、内容についてわかりやすくレポートにまとめる。	3	課題点検
			グループで協力して、ポスターを作成し、プレゼンテーションを行う。		
9	評論2	小川眞里子 『科学的「発見」とは』	科学的なものの見方・考え方について、筆者の論旨に従って理解を深める。	6	授業観察 発問評価 課題点検 定期考査
	評論3	宇野常寛 『おじいさんのランプ』	日本人の美意識について、諸外国との比較を通し、考察する。	4	定期考査

10	小説3	魯迅 『藤野先生』	登場人物の心理を丹念にたどり、内容を味わう。	6	授業観察 発問評価
	評論3	清水克雄 『消費されるスポーツ』	メディアが様々な形でスポーツに影響力を及ぼすようになってきたことを理解する。	4	課題点検 定期考査
11	評論5	村上陽一郎 『日本人の美意識』	日本人の美意識について考察する。	3	授業観察 発問評価
	評論5	若林幹夫 『地図の想像力』	本論の要旨を、構成と展開を踏まえて読み取る。	3	課題点検 定期考査
12 1	評論4	丸山真男 『「である」ことと「する」こと』	「である」ことと「する」ことから見た近代の混乱と現代の倒錯の状況を理解する。 前半の「する」重視と後半の「である」重視から、筆者の主張を再構成する。	7	授業観察 発問評価 課題点検 定期考査
2 3	小説2	夏目漱石 『こころ』	己の生き方を探るための苦悩を学び、生徒自身の将来の生き方を探る指針とする。	11	授業観察 発問評価 課題点検 定期考査

計70時間 (50分授業)

4 課題・提出物等

- ・各単元毎に提出物を指示する。
- ・休業中の課題は別途指示する。

5 評価規準と評価方法

評価は次の観点から行います。				
関心・意欲・態度	話す・聞く能力	書く能力	読む能力	知識・理解
国語で伝え合う力を進んで高めるとともに、言語文化に対する関心を深め、国語を尊重してその向上を図ろうとしている。	目的や場に応じて効果的に話し、的確に聞き取ったり、話し合ったりして、自分の考えをまとめ、深めている。	相手や目的、意図に応じた適切な表現による文章を書き、自分の考えをまとめ、深めている。	文章を読んで、書き手の意図や、人物、情景、心情の描写などを的確に捉え、自分の考えを深め、発展させている。	伝統的な言語文化及び言葉の特徴やさまり、漢字等について理解し、知識を身に付けている。
以上の観点を踏まえ、以上の観点を踏まえ、 ・授業の取り組み（授業態度、発表や討論の様子、学習活動への参加状況など） ・各課題や提出物の内容 ・各小テスト ・定期テスト などから総合的に評価します。				

6 担当者からの一言

- ・現代文は日常の言語活動の基礎となる言語・知識・思考方法・表現技法を学ぶ科目である。論理的な日本語を用いる上で必要不可欠な作業なので、一年間しっかりと学んでほしい。
- ・授業を大切にすることはもちろん、主体的に予習・復習をすること。
- ・課題は必ず自力で行い、期日を守って提出すること。

(担当：原)